

令和 6 年度 第 10 回

## 郡 市 医 師 会 長 会 議

日時 令和 7 年 2 月 27 日（木）

15 時 00 分～

場所 5 階 大会議室

### 会 長 挨 拶

### 協 議 事 項

- 1 会長・副会長・常任理事協議事項について

### 【郡市医師会長検討事項】

### 報 告 事 項

- 1 医療事故調査制度の相談事案（令和 6 年 12 月分）について（資料なし）

松本常任理事

※件数 3 件

- 2 診療に関する相談件数等について（令和 7 年 1 月分）（資料なし）

松本常任理事

※件数 0 件

- 3 産業医委嘱契約書の確認について

寺師常任理事

- 4 令和 6 年度埼玉医科大学医学部 1 年生「在宅医療早期体験実習」の報告について

鹿嶋常任理事

5 保険医療機関の指定について（令和 7 年 2 月分）

小室常任理事

6 保険医療機関の指定の取消相当について

小室常任理事

関東信越厚生局

7 会長・副会長・常任理事報告事項について

そ の 他

[ 資 料 配 布 ] （ホームページ掲載）

- 1 数量にかかわらず厚生労働省の確認を必要とする医薬品の改正について（14 枚）

登坂常任理事

日医

- 2 サリドマイド製剤、レナリドミド製剤及びポマリドミド製剤の使用に当たっての安全管理手順の改訂について（3 枚）

登坂常任理事

日医

寺師常任

産業医委嘱契約書の確認について

令和7年1月24日～令和7年2月20日 合計3件(新規3件・更新0件)

No.	郡市医師会名		産 業 医 名	病 ・ 医 院 名	契約者（事業場）名・所在地	備 考		
1	3	大宮	ハスミ ケンジ 蓮見 謙司	蓮見ペインクリニック 医院	一財)埼玉県交通教育教会 さいたま市北区植竹町2-2		会員	新規
2	14	入間地区	モリ タカユキ 盛 隆之	小林病院	株式会社ピーエムティー 福岡県糟屋郡須恵町大字佐谷1705番地の1	事業場：関東事業所 埼玉県入間市狭山台一丁目2-24	会員	新規
3	22	深谷寄居	サトウ エイチ 佐藤 栄一	佐藤医院	マルコーフーズ株式会社 深谷市新戒697番地1		会員	新規

鹿嶋常任

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業

2024 年度  
埼玉医科大学 医学部 1 年生  
「在宅医療早期体験実習」  
実施報告書

<本書は、2024 年度の最終報告を一部抜粋したものです>



埼玉医科大学



令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

## 目次

<b>I はじめに</b> .....	1
1. ポストコロナ事業における、在宅医療早期体験実習の位置づけ .....	1
2. 本実習実行に至る準備 .....	1
<b>II 在宅医療早期体験実習の概要</b> .....	2
1. 実習期間と履修学生数 .....	2
2. 実習機関（医療機関等の名称、所在地） .....	2
<b>III 学習過程と成果</b> .....	4
1. 学習過程 .....	4
1) 事前学習課題 .....	4
2) 実習当日の活動 .....	6
3) 事後学習課題 .....	7
2. 学生の活動報告 .....	7
1) 見学、体験項目 .....	7
2) 出会った職種 .....	9
3) 指導医からの講評 .....	10
3. 在宅医療早期体験実習の学習成果 .....	12
1) 事後学習 .....	12
2) ポストアンケート .....	12
<b>IV 今後の課題</b> .....	18
1. 調整、運営上の課題 .....	18
2. 学生の学習支援上の課題 .....	18

## I はじめに

### 1. ポストコロナ事業における、在宅医療早期体験実習の位置づけ

埼玉医科大学と群馬大学は、令和 4 年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に選定され、埼玉県・群馬県、両県医師会、埼玉県立大学などの連携機関並びに、両県県境地域の 13 医療機関協力のもと、健康と医療を支える未来医療人の育成を目指して取り組んでいる。具体的には、現在のみならず将来を見据えて、地域を基軸として地域医療の現状を学ぶこと、将来地域医療の中で必要となるがん医療、難病医療、遺伝医療などに入学早期から触れること、地域の医療機関における体験実習を拡充すること、感染症医療、コモンディジーズの臨床推論を含む総合診療に関する教育の推進を目指し、両大学の学生が参加する利根川プログラムをはじめとした 5 つの教育プログラムを開発している。

埼玉医科大学の 1～6 年次までの全学生を対象にした教育プログラム 1「地域を基軸とした優れた実地臨床医家の育成プログラム」では、将来地域で必要となる医療や医師不足地域を基軸とした地域医療の理解、在宅医療の理解、地域診断手法を身につけることなどを目指した地域医療マインドを培う教育プログラムを開発した。在宅医療早期体験実習(以下、本実習)は、教育プログラム 1 の中で、地域におけるプライマリケア・在宅医療に関しての理解を深め、地域医療に従事する意欲を早期から持てるような早期体験実習として位置づけ、令和 7 年度から、1 年生全員が履修することになった。

### 2. 本実習実行に至る準備

本実習は、連携機関である埼玉県医師会の全面的な協力を得て実施することができた。令和 4 年度の本補助事業開始時に県医師会長、在宅医療担当副会長、同常任理事に説明し、主旨、内容を理解いただいた。県内 30 の郡市医師会長会議で実習の概要を説明し、改めて県医師会から郡市医師会への依頼に基づき、70 の医療機関が実習施設の候補としてリクルートされた。

その後、本実習の日程と、受入れ可能な医療機関のマッチングを行い、大学で配置を決定し、各医療機関に依頼した。最終的には、49 の医療機関の協力を得ることができた。

## II 在宅医療早期体験実習の概要

埼玉県の高齢者人口の増加率は他県との比ではない高まりを見せている。さらに、人口 10 万対の医師数は全国最下位を維持している現状にある。埼玉県が 2016 年度に策定した「埼玉県地域医療構想」では、2025 年までに入院医療の需要は約 1.3 倍、在宅医療等の需要は約 1.8 倍に増加すると推計しており、増大する慢性期の医療ニーズの受け皿として、在宅医療の役割が期待され、在宅医療を担う医療者育成や、職種間連携のさらなる仕組み化が喫緊の課題と言える。

埼玉医科大学医学部では 2024 年度から、1 年次に履修する在宅医療早期体験実習を開始した。埼玉県の医師不足や地域医療構想に対応し、医師を志し入学したその年に、地域に根付いた医師の活動、職種間連携、さらにはその中心にいる生活者の実際を知る機会となる実習である。医学生としての初年次から地域・在宅医療に目を向け、関心を寄せることができる医師育成を目的としている。

### 1. 実習期間と履修学生数

2024 年度は 133 名が本実習を履修した（表 1）

表 1 在宅医療早期体験実習日程と日別配置学生数

実習日	学生数（人）			備考
	午前配置	午後配置	計	
2024 年 9 月 6 日（金）	8	13	21	
2024 年 9 月 13 日（金）	10	12	22	
2024 年 9 月 20 日（金）	7	14	21	
2024 年 9 月 27 日（金）	9	12	21	
2024 年 10 月 18 日（金）	7	15	22	
2024 年 10 月 25 日（金）	7	14	21	
2024 年 11 月 29 日（金）		1	1	追加日程
2024 年 12 月 13 日（金）		3	3	
2025 年 2 月 12 日（水）	1		1	
合計	49	84	133	

### 2. 実習機関（医療機関等の名称、所在地）

在宅医療早期体験実習は、埼玉県医師会、埼玉県郡市医師会の協力を得て、県内で在宅医療を担っている医療機関、診療所等（以下、医療機関等）を 70 か所ご推薦いただいた。そのうち、学生の実習受け入れが可能と回答いただいた 50 の機関に学生を配置したのちに再調整を行い、最終的に 49 の機関に学生を配置した（表 2）。

表 2 2024 年度 在宅医療早期体験実習 受入れ機関一覧

医療機関等の名称	所在地	医療機関等の名称	所在地
常葉ホームクリニック	さいたま市	ふるや医院	飯能市
金山町たたら内科	川口市	イムス富士見総合病院	富士見市
上青木中央醫院	川口市	安藤医院	ふじみ野市
芝西医院	川口市	鶴ヶ島在宅医療診療所	鶴ヶ島市
川口新緑訪問診療所	川口市	おのづか在宅クリニック	鶴ヶ島市
川口診療所	川口市	杏クリニック	狭山市
大宮ほほえみクリニック	さいたま市	さやま地域ケアクリニック	狭山市
大宮双愛病院	さいたま市	東松山在宅診療所	東松山市
ひろせクリニック	川越市	シャローム病院	東松山市
霞ヶ関南病院	川越市	児玉中央病院	本庄市
ハヤカワクリニック	川越市	あねとす病院	深谷市
傍島外科	川越市	中田病院	加須市
熊谷外科病院	熊谷市	久喜在宅クリニック	久喜市
熊谷生協病院	熊谷市	ふたば在宅クリニック	久喜市
並木病院	所沢市	奏診療所	蓮田市
ふく在宅クリニック	所沢市	白岡ファミリークリニック	白岡市
中島病院	戸田市	篠津医院	白岡市
辻川ホームクリニック	蕨市	岡野クリニック	越谷市
あげお在宅医療クリニック	上尾市	蒲生天神橋クリニック	越谷市
西村ハートクリニック	上尾市	在宅クリニック春日部	春日部市
堀ノ内病院	新座市	東岩槻ファミリークリニック	さいたま市
メディクス草加クリニック	草加市	こびなた在宅クリニック	さいたま市
すこやか内科クリニック	さいたま市	あさがおクリニック	吉川市
入間けやきクリニック	入間市	みさと中央クリニック	三郷市
西武入間病院	入間市		

以上、49 機関

調整の都合により今年度の学生配置なし

中島内科泌尿器科医院	川越市
------------	-----



### Ⅲ 学習過程と成果

#### 1. 学習過程

##### 1) 事前学習課題

入学年度の在宅医療早期体験実習は、学生にとって未知の体験を多く含む学習活動である。本実習は、在宅医療の現場を体験することを通して、地域で求められる医師の役割を理解することと、体験を通して自分自身を振り返り、ヒューマンケアに携わる者としての姿勢を身につけることを目標にしている。学生が単独で医療機関等に赴き、指導医をはじめとする医療従事者、事務職員等に同行し在宅医療の実際を学ぶプログラムである。

訪問診療や往診する医師に同行し、診察や処置などの場面の見学を主とした体験実習として、いるため医行為の実践はなくとも、医療機関や療養者宅でのマナーが問われる場面や、医師や看護師が患者や家族と会話する場面での同席、地域医療や在宅医療の制度を知る機会を想定し事前学習を準備した。

事前学習はLMS(Learning Management System/学習管理システム 本学ではWebClass を使用)に4つの教材を格納し、実習前日までに学生が個々に取り組む段取りとした。4つの学習課題は次の通りである(表3)。図1はLMS上に表示される画面の一部である(図1)。

表3 事前学習課題と設置の意図

事前学習課題	教材設置の意図
保健医療福祉に関する 国家試験類似問題に挑戦	訪問診療に係る制度や法を知り、医師や多職種の役割と留意点、訪問診療を利用する人の権利擁護などに関心をもつことを目的としている
現地までの交通手段申告	単独で未知の地域、未知の医療機関等に出向くため、所要時間や経路のシミュレーションを目的としている
居宅等への訪問時の マナー確認テスト	訪問の際の必要最低限のマナーについて基礎知識を持つこと、場面に応じた判断ができることを目的としている
実習地域調査・実習施設の特徴 (調査用紙作成)	実際に訪問する地域の人口、高齢率、産業等の特性と、起点となる医療機関の特徴と役割を知ること、地域に関心をもって実習に臨む心構えの醸成を目的としている

事前学習の完了を実習履修の要件としており、履修者全体の97%は期限内に能動的に学習を完了した。



図 1 ＜画像＞LMS 画面と学習教材として格納したもの（一部）

## 2) 実習当日の活動

実習当日の学生の行動は次の過程を辿る。まず、実習先となる医療機関等の診療開始時刻 20 分前までに現地に到着し、着衣を整え医師の訪問診療や往診に同行する。約半日の現地での実習を終えると各自が帰路につく。実習日 1 日あたり、20 名から 23 名の学生が県内各所に移動し、指導医のもとで学習活動をする実習であるため、医療機関ごとに実習開始時刻、終了時刻が異なるという特徴がある。そのため、県内各所で異なる時間帯に実習する学生の安全と、実習開始および終了を把握する必要があった。現地到着および、実習終了の把握のために、Web フォーム作成ツールを利用し、学生には実習開始と終了時に、そのフォームに出欠席の自己申告をするよう求めた(図 2)。緊急時のみ大学宛に電話連絡をする約束事としていたが、実習期間中に出席申告に関する問題は生じなかった。

また、持参物についての詳細な指示を学生にする必要があった。医療機関によって訪問時の服装や留意点が異なることに対し、学生が自ら確認できるように、医療機関の名称、所在地等と併せ、持参物、服装、留意点等を一覧にして LMS に常時公開資料として格納した。



在宅医療体験実習出欠連絡フォーム

B I U 〇 ✖

フォームの説明

メールアドレス\*

有効なメールアドレス

このフォームではメールアドレスが収集されます。設定を変更

学籍番号\*

短文回答

氏名\*

短文回答

実習月日\*

☐ 9月13日 (金)

☐ 9月20日 (金)

☐ 9月27日 (金)

☐ 10月18日 (金)

☐ 10月25日 (金)

実習時間帯\*

図 2 <画像> 実習開始・終了の学生の自己申告用のフォーム

### 3) 事後学習課題

実習終了後には、学習の成果報告を目的に4項目の教材をLMSに格納した。そのうち学習後レポートとポストテストは実習終了の必須要件とした(表4)。学習後レポートは、実習目標に沿った学びを報告することを目的としている。「在宅医療の現場を体験することを通して、地域で求められる医師の役割を理解することと、体験を通して自分自身を振り返り、ヒューマンケアに携わる者としての姿勢を身につける」という目標を改めて想起し、省察する機会とした。

表4 事前学習課題と設置の意図

事後学習課題	教材設置の意図
学習後レポート	訪問診療に同行し、患者、家族介護者と医師、多職種の間での関わりの実態を簡潔にまとめ、医師の役割の明確化と自己省察をすることを目的としている。
ポストテスト	事前学習課題に設置した国家試験類似問題の応用版を用意。全問正解するまで取り組むことを要件としている。
見学・体験項目報告	見学を主とする実習の中で、学生が見学したこと、体験したことを把握するための情報収集を目的としている。
アンケート (自己省察を含む)	学習後レポート、見学・体験項目の記載と申告を経て、自己の学習姿勢の省察と、学習効力感について記載を求めている。学生が自分の体験を簡潔にまとめ、省察にくわえ、効力感や高揚感を抱く思考を助けることを目的としている

事後学習課題は、概ねの学生が期限内に提出を完了した。レポートの質に課題を残す数名に対しては、再考を示唆し再提出を求めた。ポストテストについては学習方法の定着と、正確な情報収集力に係る情報リテラシーの意識を持つことを目的にオープンブックでの取り組みを推奨した。LMS上で繰り返し受験し全問正解することを実習終了の要件の一つとしていたが、全問正解に至ったのは89%であった。

## 2. 学生の活動報告

本実習では、医療機関の特性や地域特性などにより学生が体験、見学する内容が多様であることを想定した。学生の見学・体験の実態を把握することは、次年度以降の学生の準備学習の内容を精査、検討する一助となるため、アンケートを用意し回答を求めた。回答率は99%であった。

### 1) 見学、体験項目

全学生がバイタルサイン測定、身体診察の見学を得ており、医師の指導のもと患者の承諾を得て触診、聴診を体験した者もいた(図3)。この実習までに、測定や診察の学習経験はあるものの学生は十分な技術を持ち合わせていない。体験した学生は、不十分な自分の技術や知識を認知し、診察技術と判断力の習得を自己課題として学習後レポートに記述していた。また、看護師と家族

介護者による日常生活援助の場面(排せつや身体清潔保持など)を見学したことで(図4)、家族介護者の思いや身体の負担に目を向けて、患者のみならず家族介護者を含む支援のあり方や地域医療における医療者の役割を学習後レポートに詳細に記述する者もあった。家族介護者と看護師による日常生活援助の場面、担当者会議への同席を体験した者は、医師と看護師、事務職等の連携について尊敬の意をもち、感情の高まりをレポートに記述していた。医師の問診場面にくわえ、初めて見学をした医療処置、医療機器、衛生材料等に関心をもち、医師に求められる技術や多職種連携について、学習意欲を高める機会になったようだ。これらは学習レポートの記述に表れている。

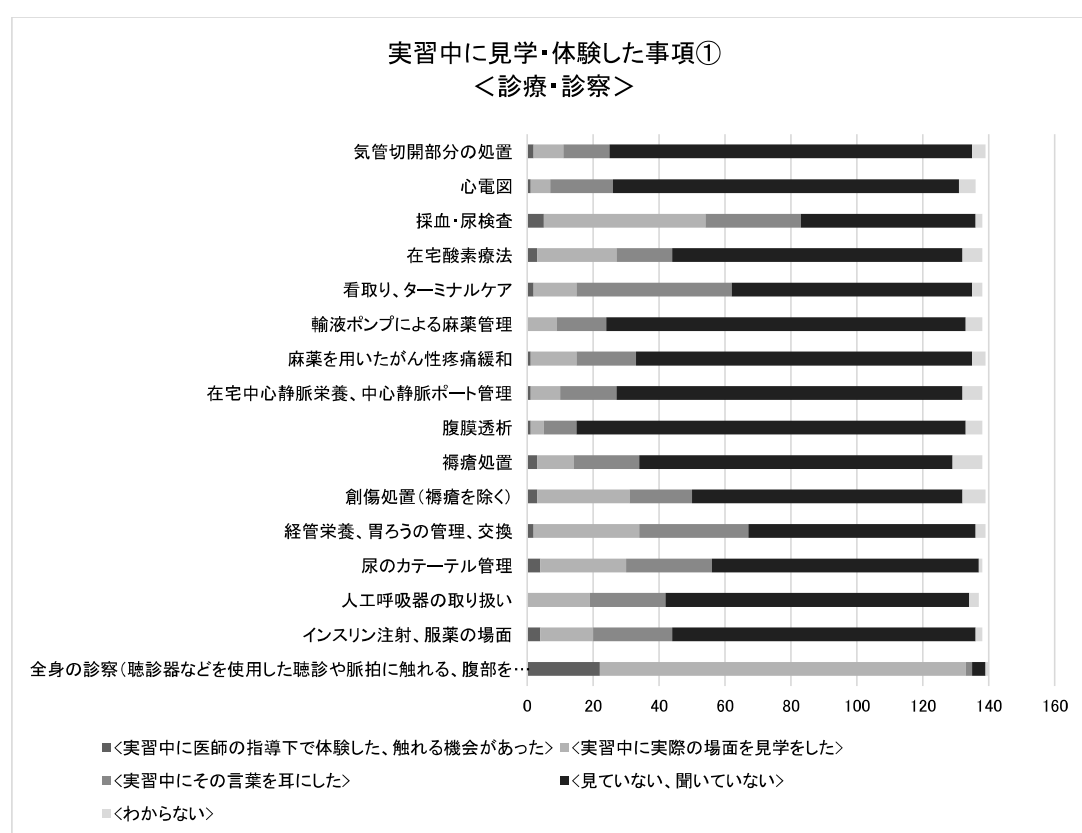


図3 学生が見学・体験した事項① 診療・診察場面

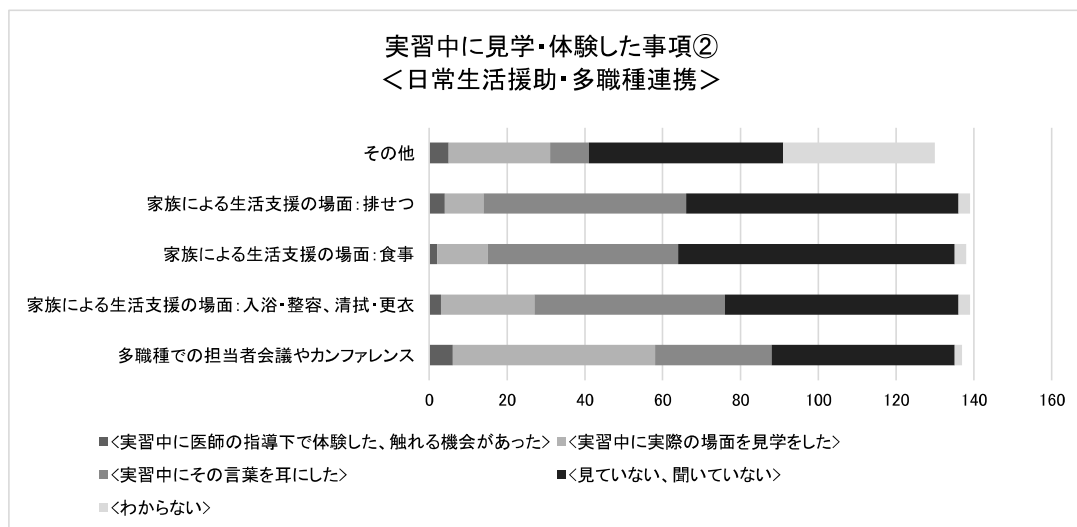


図4 学生が見学・体験した事項② 日常生活援助・多職種連携

## 2) 出会った職種

半日間の実習で、医療機関内や訪問先で学生らは多くの職種の活動や言動に触れ、交流する機会を得ていた。ここでは、学生が出会った職種について得た回答を示す(表5)。

医師以外の職種では、全学生が看護師に出会っていた。次いで回答が多かった職種は医療事務職、ケアマネジャーであり、この実習をきっかけに医師以外の職種の役割について関心をもち、学習を深めた者もあった。

表5 実習中に会った医師以外の職種 (回答学生数 133 名)

職種等	回答者数(人)	%
看護師 (訪問看護師を含む)	132	99.2
医療事務職	77	57.9
ケアマネジャー	62	46.6
介護職	43	32.3
薬剤師	22	16.5
臨床検査技師	12	9.0
理学療法士、作業療法士	11	8.3
社会福祉士	9	6.8
栄養士	8	6.0
放射線技師	5	3.8
保健師	3	2.3
医療アシスタント	5	4.0
歯科医師	1	0.8
その他	12	9.0

### 3) 指導医からの講評

学生が直接指導をいただいた医師からは、学生の学習姿勢やコミュニケーションの様子を講評いただくとともに、今後の学習への示唆や激励の言葉を頂戴した。併せて、2024 年度から開始した在宅医療早期体験実習へのご意見、ご提案もいただいた。指導医のみなさまに記述いただいた内容を一文一義で整理し、その傾向を俯瞰すると、概ねが学生の行動を賞賛、激励する言葉や、在宅医療を早期に体験する意義への言及、実習運営そのものへのご意見およびご提案であり、学生に内省を求めるものや大学側への要望や大きな改善を求める記述は少数であった(図 5. 図 6. 図 7)。在宅医療早期体験実習そのものへのご意見、ご提案および、ご配慮いただいた事項については、次年度以降の検討事項となる。いただいたご意見、ご提案の一部を表 6 に示す。

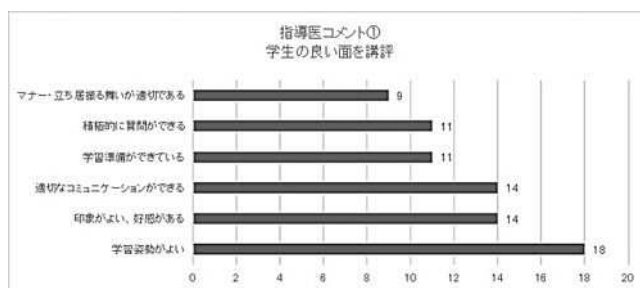


図 5 指導医によるコメント①学生への賞賛、激励（自由記述を分類した結果）

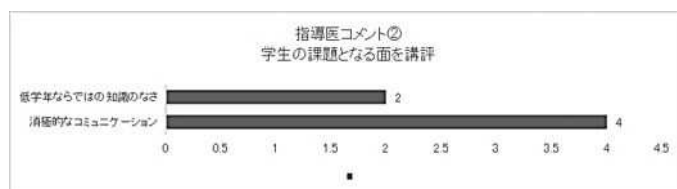


図 6 指導医によるコメント②学生の課題を示唆（自由記述を分類した結果）

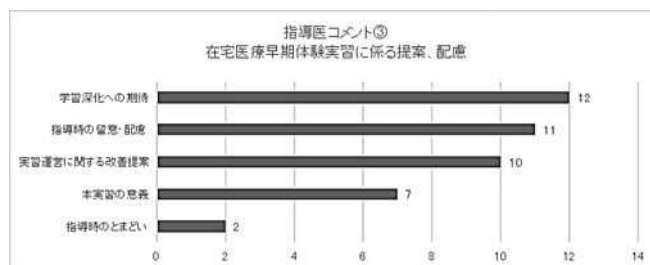


図 7 指導医によるコメント③実習運営に係る示唆（自由記述を分類した結果）

表 6 指導医からのご意見・ご提案、指導上の配慮(一部抜粋)

#### 【学習深化への期待】

- ・実習に必要な知識はこれから学ぶでしょうから、まっさらで臨むのもいいのではないかと思います
- ・この実習を通して在宅医療の道を考える医師が増えてくれれば何よりだと思い、期待しています
- ・在宅も重要性が増しています。学生たち、医師たちの理解が深まれば嬉しいです
- ・訪問医療、緩和ケアなど、ひとつひとつの言葉の理解を今後掘り下げていただければと思います
- ・在宅医療と緩和ケアの理解を、今後深めてもらう機会があればと思いました

#### 【在宅医療早期体験実習の意義】

- ・1 年次という入学早期に臨床、特に在宅の実習を行うことは、大変良いことだと思う。医師になるモチベーションに寄与するだけでなく、専門以外の教養の重要性、コミュニケーションのスキル、チームでの活動、社会の中の医療の位置づけ等を知る機会になると考える
- ・入学早期から臨床の体験実習を行うことは、学生の皆さんにとって良い刺激になることと思います。受け入れる我々にとっても、若い医学生の意見を伺える貴重な機会となりましたので大変有意義でした
- ・地域医療の極一部でも見ていただけるので、よい取り組みだと思います
- ・学生さんは新鮮な感動があったようです。低学年で臨床現場を見られることは、今後の学習のモチベーションにつながるよい試みだと思います
- ・この実習が、将来の進路選択の一助になればと思います

#### 【実習運営へのご意見、ご提案】

- ・各々の部署での話などもゆっくりと聞いていただきたいところですが、やや時間に制限がありました
- ・実習の時間について、半日だと訪問件数も少ないため、1 日来ていただいてもよいと思いました
- ・医学部 1 年生では、臨床医学の知識、経験は皆無であるので、厳選した多様、多彩な在宅患者、在宅診察をお見せしたが、実習効果はあまり感じられなかった。在宅医療の早期体験実習は、内科診断学を修めたあとが効果的ではないでしょうか
- ・1 年生なので医療内容の説明に若干戸惑いました。医学的知識はまだ少ないのではないのでしょうか
- ・今回は実習の始まりであったので、学校側ともう少し緊密に連携できればよりよかったかと思います

#### 【指導上のご配慮】

- ・全体のシステムが見せられればと考え、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなども見てもらいました
- ・8 時 30 分からの看護師の申し送り（ケアマネも同席）にも急遽参加していただきました
- ・訪問診療終了後に訪問看護に指示した処置も同行見学していただきました
- ・ACP についての説明を少しだけしましたが、興味をもたれたようでした
- ・病院での医療、在宅医療の医師と患者の関係性の違いについて強調してお伝えしております
- ・訪問診療の簡単なレクチャーと症例を説明した後に、スムーズに訪問に移行できました



### 3. 在宅医療早期体験実習の学習成果

#### 1) 事後学習

短時間の実習での学びや考察、関心や興味の高まりを言語化することと、実習で得た知識や体験を統合することを目的に、レポート記載とポストテストを必須の事後課題とした。

##### (1) 学習後レポート

在宅医療早期体験実習の総括として、学生は次の項目についてレポートに記述した(図8)。

- ・実習機関の紹介
- ・早期在宅医療体験の実際
- ・在宅医療に携わる人々
- ・在宅医療、介護を利用している人の特徴
- ・地域で求められる医師の役割
- ・今後の自己課題

レポートの内容には個人差が生じていた。具体的な学習体験と考察の記述が多い一方で、抽象的、または、感想の記述に傾倒しているものも少数あった。V 学習後レポート一覧(学生番号順に掲載)に、学生個々のレポートを掲載する。

図8 事後学習課題 レポート

##### (2) ポストテスト

ポストテストは、事前学習課題である「保健医療福祉に関する国家試験類似問題に挑戦」の類似問題を出題した。事前学習では、在宅医療の早期体験実習に関連する法や制度の知識を深めることを目指し、地域医療への関心を高めるとともに、訪問先の患者やその家族の生活背景に目を向ける準備としていた。ポストテストの目的は、実際に病院以外場で医療を提供する経験をした学生が、その学びと知識を統合することにあった。ポストテストは全問正解に至るまで実行することを実習終了の要件としたが、全員が全問正解には至らなかった。

#### 2) ポストアンケート

事後学習課題の一貫としてポストアンケートをLMSに格納し、回答を回収した。ポストアンケートの目的の一つ目は、この実習における課題分析をもとに課した事前学習を実際に役に立てることができたか、役立つ場面があったかを問うものである。目的の二つ目は自己省察である。課された事前学習課題に加え、これまでの学習活動や生活上の経験、個々の意欲を、実習で活性化できたのか、あるいは課題が残るのかを省察するための問いについて回答を得ている。

## (1) 事前学習課題の成果

事前学習課題の学習のしやすさにくわえ、実習先で役立てることができたかを問う設問をおいた。(図9)

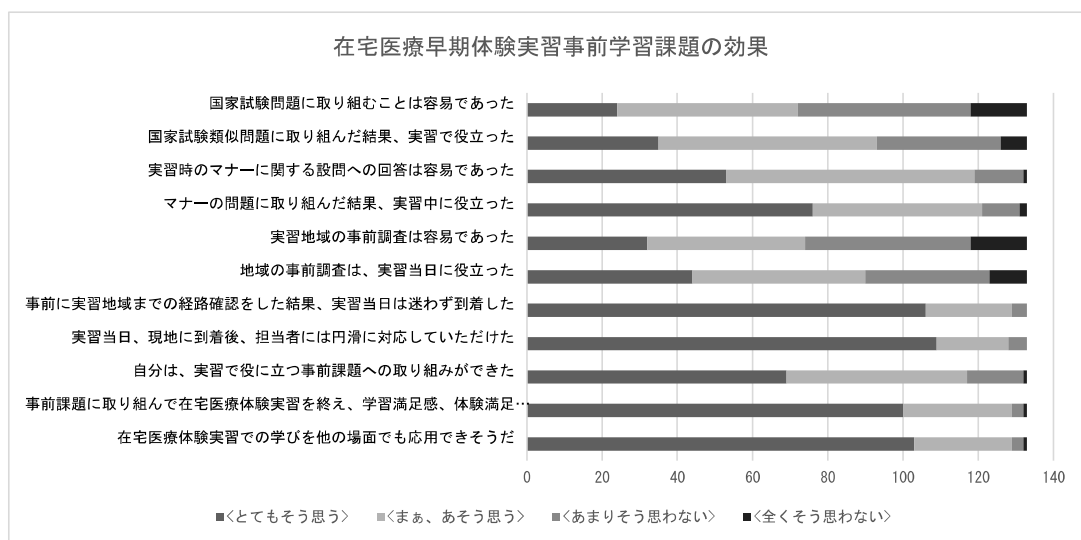


図9 事前学習課題の効果

事前学習課題の取り組みやすさについて尋ねた結果、半数以上の学生は容易に学習できたという回答であった。やや困難感を持つ者の割合が多い設問は、国家試験類似問題への取り組みであった。国家試験類似問題を事前学習課題とした理由は、既習である地域医療に関する制度や法の知識を再確認し、実習で活性化することや医師との対話に役立てることを想定していた。学生の回答や省察からは、法や制度に関する実習直前の学習動機付けが不足したこと、実習時間内でその知識を活性化する機会がなかったことがうかがえた。一方で、地域や実習機関の情報収集と、マナーに関する事前学習は半数以上の学生が実習中に役立ったと回答し、学生の行動を助ける学習であったことがわかる。

## (2) 学習活動における学生の効力感と自己省察

ポストアンケートでは、2つの側面から自己評価をすすめ、その言語化を求めた。一つ目の側面は、自分の学習準備や行動、判断で「頑張れた」「うまくいった」「やってよかった」という体験の自由記載とし、もう一つの側面は「できなかった」「うまくいかなかった」「内省している」ことについて、事象を添えて自由記述を求めた。図10、図11は、学生の記述を言語で整理し分類した結果をグラフ化したものである。実習中の学習内容の充実、コミュニケーション、積極性についての効力感を示す記述が多く、実際の医療の場で見学や体験をすることや、既習学習であるコミュニケーションの技法を活用できたことに効力感をもっていることが伺えた(表7)。

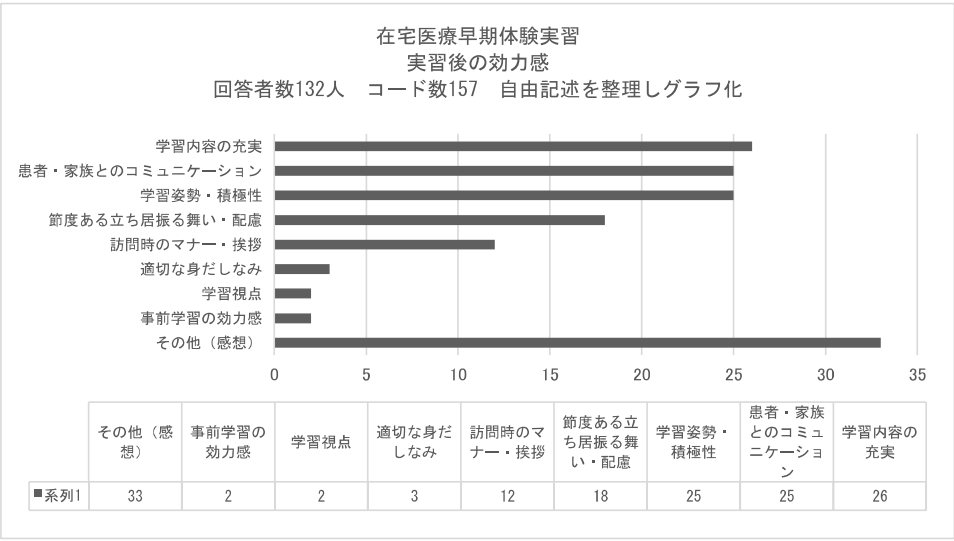
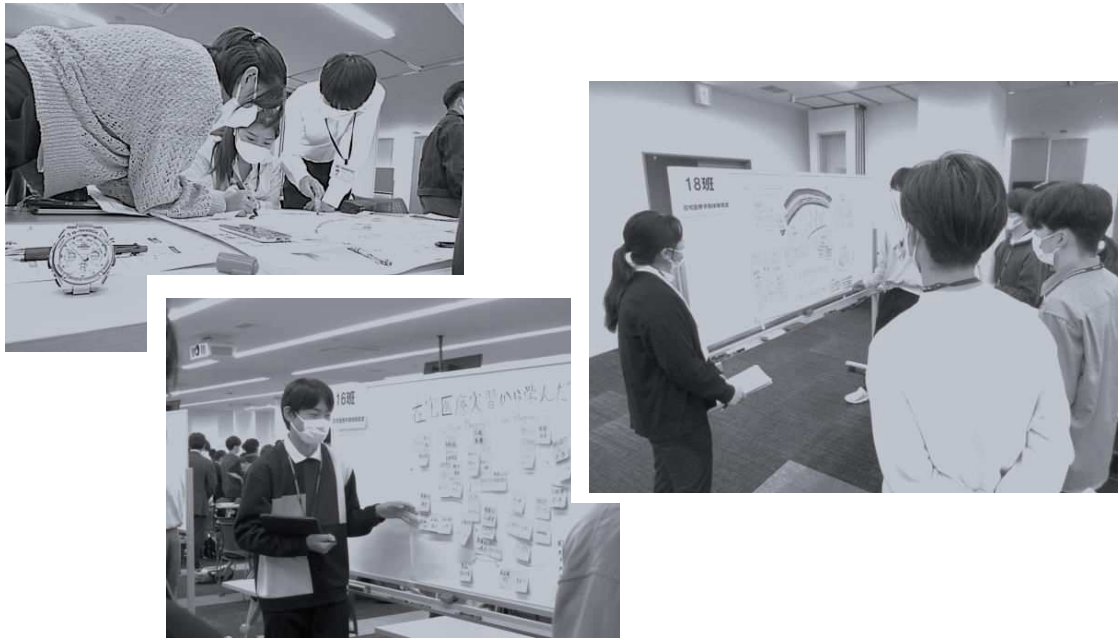


図 10 実習後の学生の効力感



実習終了後、実習のまとめとなる演習の様子

表 7 実習後の効力感 (学生記述の一部)

学習内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当医師の態度にとっても感銘を受けた。学習するモチベーションが上がった</li> <li>・往診時間のあと外来診察を見せていただけて、在宅医療だけでなく地域医療全体を見ることができてとても貴重な機会となった</li> <li>・先生が今回訪問する利用者さんがどういった方なのか前もって教えてくださったので、心持ちを得られたので大変助かった</li> </ul>
患者・家族とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者さんやその家族と話す際の言葉遣いや、医療行為中に邪魔にならないような立ち回りを褒めていただいた</li> <li>・積極的に医師や看護師とコミュニケーションをとることが出来た</li> </ul>
学習姿勢・積極性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に先生方と会話しようとした姿勢は実習に臨む学生としてよいと自己評価できる</li> <li>・少しでも疑問に思ったり、実際の現場の医師はどう考えているのか、なぜ在宅をやり始めたかの経緯など、気になることは何でも質問した。医師は診断書や紹介状、カルテなど、差し支えない範囲で見せてくださり大変勉強になった</li> </ul>
立ち居振る舞い・配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 医師や看護師の動きを観察し、迷惑がかからないように立ち回ることができたと思う</li> <li>・時間なども守れ、医学生として真剣に取り組めた</li> </ul>
訪問時のマナー・挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先のお宅で家族の方に名札を見せながら丁寧に挨拶し、ほめていただきました</li> <li>・医師から話を真摯に聞くことができた。また話を聞く姿勢が良いということや、患者に対する挨拶や態度が良いと講評をいただいた。今後もこのような態度を続けて医師になる上で活かそうと思う</li> </ul>
身だしなみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ（まとめ髪、自然なメイク、指定の服装）を整えていったところ、クリニックの方々だけでなく、患者さんからも印象が良いと言われた</li> <li>・スーツで現地に行ったら、好印象をもっていただきました</li> </ul>
学習視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が寝たきりの患者の採血をするときに、患者の目に注目していた（目は口程に物を言うから）。実際に採血をする際、目にすごい力が入っているのが分かった。そのことを医師に後で伝えたら、いいところを観察していたね、と言っていた</li> <li>・患者さんとのコミュニケーションの機会をたくさんいただいた。また、このコミュニケーションによって新たに患者さんの情報を知ることができたと言っていた</li> </ul>
事前学習の効力感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習で実習先でのふるまい方について予習することができたので、医学部生として適切な行動をとることができたと思う</li> <li>・訪問時のマナーについて事前に習得してから実習を迎えたので、自分自身たじろぐことなく、訪問先に不快や不安を与えずに実習を終えることができました</li> <li>・今回、事前に実習の際の注意点を確認できたのが良かったと思いました。小さなことです、玄関先で靴を綺麗に揃えた時、「素晴らしいですね」と、看護師さんに言われて、事前に確認してよかったなと思いました</li> </ul>

効力感に関する記述分類の結果には、その他(感想)に分類したものがある。これは学習に関する効力感とは異なり、学生が喜びや嬉しさ、楽しさ、感謝を示す一文を分類したものであり、初年次の学生が単独で向かった実習先や訪問先で、医療従事者や患者、家族から向けられる表情や言葉に対する、素直な感情が表れており、学生にとっては特記すべき高揚感のある出来事だったのではないだろうか。1年生が初めて体験する訪問診療への同行で「嬉しい」「ありがたい」と肯定的な感情を持つことは、後続する多くの分野の学習動機づけになる可能性が高い。ここでは学生の記述から“学生の気持ち”を記しているものを抜粋して紹介する(表8)。

表8 学生の“嬉しかった”“楽しかった”という記述(一部抜粋)

<p><b>【医師やスタッフとの関わりの中で感じた嬉しさ、喜び】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問診療に行く車内で、医師や訪問看護師さんが、私の質問にも気さくに答えてくれたことが嬉しかったです</li> <li>・「ゆっくり話していて患者さんも聞き取りやすかったと思う」と看護師さんに言っていただけてうれしかった</li> <li>・質問すると皆さんが丁寧に回答くださるのがありがたかったです</li> <li>・訪問した施設の方に挨拶をすると、挨拶を返してくださ嬉しかった</li> <li>・笑顔を決やらずに医師や患者さんと接していたら、「将来人気の医師になりそうだね」と言われて嬉しかった</li> <li>・担当してくださった先生から、自分の人柄を褒めていただいた。そのことがとても嬉しかった</li> <li>・訪問診療した後に、人の暖かみを感じ、嬉しい気持ちになった</li> <li>・医師になる志望動機と今後の展望を、指導をいただいた医師に話したら、自分に関心をもっていたき嬉しかった</li> <li>・「学生さん」ではなく、「〇〇先生」と呼ばれたのが人生初で恥ずかしさもあるものの嬉しかった</li> <li>・病院の全体の見学をさせて貰うなどご配慮いただき非常にありがたかったです</li> <li>・最初に医師が私を紹介する場を作っていただき、学生を受け入れていただいていることを感じて安心しました</li> <li>・終始明るい雰囲気だったので質問をしやすく、楽しかったです</li> </ul> <p><b>【患者、利用者との関わりの中で感じた嬉しさ、喜び】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部の一年生という患者さんに「がんばってね」と言ってもらえたのがとても嬉しかった</li> <li>・利用者さんとコミュニケーションを取った際に、礼儀作法が美しいと褒めていただきました</li> <li>・利用者さんに来てくれてうれしい、とハグしてもらえました。嬉しかったです</li> <li>・御高齢の患者さんは耳が遠く、あまりはっきりと発音することも出来ていなかったが、最後に私が「本日はありがとうございました。」とお礼を伝えたところ、笑顔で「頑張ってね」と声をかけてくださいました。すごく嬉しかったです</li> <li>・患者さんと目が合った時に、患者さんがニコツとしてくれたことがとても嬉しかったです</li> <li>・行く先々で患者さんからこれから頑張るね、と励ましの言葉をいただきました。頑張ろうと思えました</li> <li>・ご高齢であまり声の出せない方もいらっしゃったが、挨拶や会釈をすると笑顔になってくださり、話せなくてもコミュニケーションが取れることを知って、挨拶をすることは大切だと改めて感じた</li> <li>・患者さんとお話したときに「いいお医者さんになりそう」と言っていただき、恥ずかしかったけど嬉しかった</li> </ul>
--

省察と自己課題についての記述には、多くの学生が知識不足や、実習に臨む学習準備不足を挙げていた。この実習がきっかけとなり、後続する各領域の学習の必要性や、関連性を確かめながら継続的で横断的な学習を継続することに期待したい。

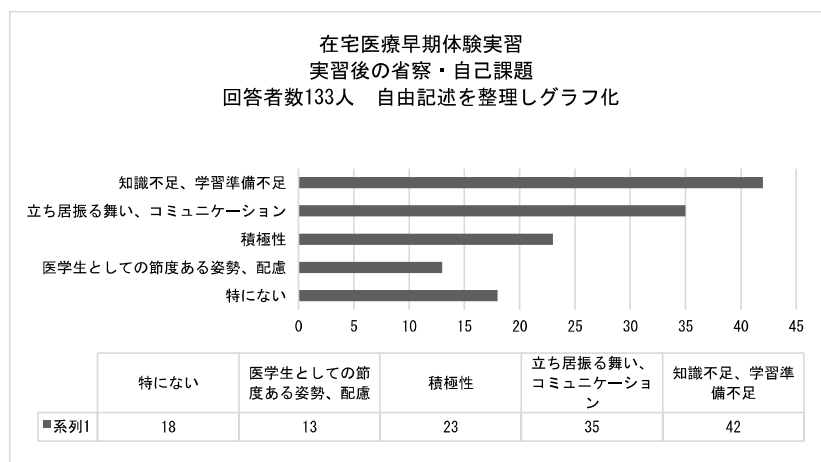


図 11 実習後の学生の省察・自己課題

表 9 実習後の省察・自己課題(学生記述の一部)

学習準備不足・知識不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に在宅医療の実態(利用者の傾向や、処置)や介護について学習しておくとうと思った</li> <li>・患者さんと医師の会話を聞いているときに患者さんの悩みを自身の心の中で考えて、医師の考えと何が違うのかを考えてみた際に、自分は一面的に見てしまうことがあったので、多面的に物事を見る必要があると感じました</li> <li>・病気の名前などが出た時にその名前を知らなかったため話を理解することができなかった</li> </ul>
立ち居振る舞い・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張もあり、先生が教えてくださったことに対する反応が薄かったかもしれない、反省している</li> <li>・患者さんに自分から自己紹介ができず、先生に紹介してもらってから挨拶をしていた。自分から言えたらよかったと思う</li> <li>・患者さんだけに目がいってしまい、その家族にあまり配慮が出来ていなかったかもしれない</li> </ul>
積極性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師への質問は積極的にできたが他の職種の方への質問はあまりできなかった</li> <li>・訪問先で、自分が名乗るより先に医師に私の紹介をさせてしまい、申し訳なかった</li> <li>・私から行動できずに、相手に気を遣わせることが多かったような気がするので、医学生という志を持ってもっと自分から積極的に行動するべきだと思った</li> </ul>
医学生としての節度ある姿勢、配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午後からの実習なのにお昼ご飯を食べなかったのが良くなかった。お昼を食べてないと先生が知り、気を使わせてしまった</li> <li>・どう行動すればいいのかわからないことが多かった。</li> <li>・医師が立って診察している場合は自分も立って見学していることに違和感はないが、先生あるいは利用者のご家族の方が室内で床に座っている時に自分自身も座るべきなのか判断したり相談できなかった</li> </ul>

## Ⅳ 今後の課題

### 1. 調整、運営上の課題

1 年生が履修する在宅医療早期体験実習の初年度は、学生指導にお力添えいただいた医師をはじめとする医療機関等の皆様や、学内教職員との調整において、改善や再調整を要することがたびたび生じた。学生の到着時刻をより明瞭にする必要があることや、学生の持参物、実習中の学習姿勢などについて、実習機関からの連絡や学生からの報告をうけて、その都度対応を行った。また、指導をいただいた医師からの講評には、1 年生という立場を理解いただいたうえで、さらに学習を深めてほしいと期待の声が多く寄せられた。本実習で学生がより能動的に学習し、関心を高めるためには、実習までの既習学習をより具体的に想起することを重視した事前学習の精選が必要である。そのうえで、学生のレディネスについて医療機関等と共有することを検討していきたい。

### 2. 学生の学習支援上の課題

上記で記したように、学生が限られた時間の中で在宅医療に関心をもち、能動的に実習するための事前学習の精選が必要である。そのためには、在宅医療早期体験実習で学習すべき事項の前提となる知識の想起を導き、学習深化のための予備学習の構築が肝要である。入学後すぐに学ぶ「地域医療とチーム医療」での学びや、これまでの社会経験、生活経験を想起する機会をつくることが、学生個々が自分事として実習に臨む準備の一助になると考える。さらに、2024 年度に見学や体験した事柄を「見学機会の高い場面」として学生に情報提供と学習示唆をする予定である。

本書は、2024 年度の最終報告を一部抜粋したものです

本書作成日 2024 年 2 月 25 日  
本書発行者 柴崎智美 / 埼玉医科大学医学教育学  
小池啓子 / 埼玉医科大学医学教育センター

住所 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38  
電話 049-276-1168

無断での転載、複製、改変等を禁止いたします



令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

**埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成**

<https://sgmirai.jp/>





## 小室常任

### 保険医療機関の指定について

(令和7年2月分)

新	規	8 件
遡	及 指 定	5 件
合	計	1 3 件

# 諮 問 件 数

	新 規 指 定		指 定 更 新	合 計
	新 規	遡 及 指 定		
医 科	8 件	(3) 5 件	20 件	33 件
歯 科	6 件	(2) 3 件	21 件	30 件
薬 局	5 件	(4) 8 件	33 件	46 件
計	19 件	16 件	74 件	109 件

( )は開設者変更の再掲である

# 新規指定医療機関一覧表

処理年月日

[令和 7年 2月 1日 から 令和 7年 2月28日 医科 指定分]

令和 7年 2月17日 作成

1 頁

項番	医療機関名称	医療機関所在地	開設者氏名	管理者氏名	電話番号 勤務医数 診療科名	病床数 ／ 登録理由	点数表	備考
1	医療法人社団隆樹会 いつきクリニック 川口	〒332-0012 川口市本町四丁目1番8号7階	医療法人社団隆樹会 理事長 木村 隆雄 (56歳)	石川 剛 (37歳)	048-291-6770 常勤: 1 医 1( 内 外 整外 精	新規 R7.3.1	医	現存 診療日: 月火水木金土 休診日: 日祝 訪問あり
2	なんこし眼科・ペインクリニック	〒343-0845 越谷市南越谷1丁目19-1LOC' S南越谷 4F	山田 裕一 (50歳)	山田 裕一	048-940-3133 常勤: 1 非常勤: 1 医 1( 眼 麻 1)	新規 R7.3.1	医	現存 診療日: 月火水木土日祝 休診日: 金 ✓
3	上尾心療内科	〒362-0075 上尾市柏座2丁目7-1 エリア赤熊II1階	一般社団法人メディックス 代表理事 西村 顕 (34歳)	西村 顕	048-788-4013 常勤: 1 医 1( 心内 精 内	新規 R7.3.1	医	現存 診療日: 月火水木金土日祝
4	谷塚駅やなだ泌尿器科	〒340-0028 草加市谷塚一丁目1番23号	築田 茂人 (44歳)	築田 茂人	048-924-0450 常勤: 1 医 1( ひ	新規 R7.3.1	医	現存 診療日: 月火水金 半 日: 土 休診日: 木日祝
5	所沢駅前ひだか消化器内科肛門内視鏡クリニック	〒359-0037 所沢市くすのき台一丁目12番地3 holly grace 1階	日高 卓 (39歳)	日高 卓	042-997-9719 常勤: 1 医 1( 内 外	新規 R7.3.1	医	現存 診療日: 月水木金土日 休診日: 火祝 ✓
6	ひがとこ在宅診療所	〒359-0021 所沢市東所沢1-13-11ソレーヌ201号	四十物 佑介 (38歳)	四十物 佑介	04-2941-5615 常勤: 1 医 1( 内 整外	新規 R7.3.1	医	現存 診療日: 月火水木金 訪問あり 休診日: 土日祝 ✓
7	医療法人社団じあい会 メディカルスキヤニング武蔵浦和	〒336-0022 さいたま市南区白幡五丁目18番19号 MID KUDOS TERRACE 3階AB区画	医療法人社団じあい会 理事長 今村 利朗 (64歳)	窪倉 正三 (39歳)	048-864-6663 常勤: 1 医 1( 放 内	新規 R7.3.1	医	現存 診療日: 月火水木金土 半 日: 日 休診日: 祝
8	埼玉大宮門街胃と大腸の内視鏡・肛門外科・鼠径ヘルニアクリニック	〒330-0846 さいたま市大宮区大門町二丁目118番地 大宮門街WEST5階	医療法人社団ヒコズ会 理事長 篠原 寿彦 (54歳)	大島 奈々 (44歳)	048-644-5555 常勤: 1 非常勤: 1 医 1( 外 消化器外科 肛門外科 1)	新規 R7.3.1	医	現存 診療日: 月火水木金土日祝 ✓
	訪問詳細							
項番1	医療法人社団隆樹会 いつきクリニック川口	外来: 月～土 09:00～18:00 訪問: 標榜時間内				項番6	ひがとこ 在宅診療所	外来: 月～金 09:00～12:00 14:00～18:00 訪問: 標榜時間内

新規指定医療機関一覧表

処理年月日

[令和 7年 2月 1日 から 令和 7年 2月28日 医科 遡及指定分]

令和 7年 2月17日 作成

1 頁

項番	医療機関名称	医療機関所在地	開設者氏名	管理者氏名	電話番号 勤務医数 診療科名	病床数 ／ 登録理由	点数表	備考
1	福元内科クリニック	〒359-1124 所沢市東住吉 1 5 - 2 8	医療法人福和会 理事長 福元 俊孝  ( 5 4 歳 )	福元 俊孝	04-2920-1155 常 勤: 1 医 1 ( ) 内 消 内	移動  移転 R7.2.1	医	現存 診療日: 月火水金 半 日: 木土 休診日: 日祝 旧機関コード: 250,629,3 ✓
2	松原医院	〒361-0023 行田市長野一丁目 1 7 番 3 号	医療法人結び会 理事長 松原 克彦  ( 5 1 歳 )	松原 克彦	048-553-6700 常 勤: 1 医 1 ( ) 内 外 小	移動  移転 R7.2.1	医	現存 診療日: 火水金土 訪問あり 半 日: 木 休診日: 月日祝 旧機関コード: 370,147,1 ✓
3	一般社団法人信愛会 坂戸メディカル クリニック	〒350-0235 坂戸市三光町 2 2 番地 2 5	一般社団法人信愛会 代表理事 太田 眞  ( 7 2 歳 )	太田 眞	049-281-0844 常 勤: 1 医 1 ( ) 整外 内 皮 外 リハ	その他  譲渡 R7.2.1	医	現存 診療日: 月火水木金 半 日: 土 休診日: 日祝 旧機関コード: 600,192,9
4	ほしの耳鼻咽喉科	〒336-0932 さいたま市緑区大字中尾 4 4 3 番地 5	医療法人あきた会 理事長 星野 竜  ( 4 8 歳 )	星野 竜	048-711-8741 常 勤: 1 医 1 ( ) 耳い	組織変更  個→法 R7.2.1	医	現存 診療日: 月火木金 半 日: 土 休診日: 水日祝 旧機関コード: 651,972,2
5	医療法人須賀医院 駅前ハートクリ ニック	〒330-0071 さいたま市浦和区上木崎一丁目 9 番 2 0 号 M I 7 与野西口駅前 1 階	医療法人須賀医院 理事長 須賀 幾  ( 5 8 歳 )	玉那覇 雄介  ( 3 8 歳 )	048-816-9632 常 勤: 1 非常勤: 1 医 1 ( 1 ) 内 循	その他  譲渡 R7.2.1	医	現存 診療日: 月火水金 半 日: 木土 休診日: 日祝 旧機関コード: 652,047,2 ✓
訪問詳細								
項番 2	松原医院	外来: 火水金土 09:30~13:00 15:00~17:30 木 09:30~13:00 訪問: 標榜時間内						

## 保険医療機関の指定の取消相当について

令和 6 年 9 月 1 8 日、関東信越地方社会保険医療協議会に「保険医療機関の指定の取消」について諮問した結果、これを妥当とする答申がありました。

これを受け、関東信越厚生局長は、令和 6 年 9 月 3 0 日付（令和 7 年 4 月 1 日施行）で保険医療機関の指定の取消として当該保険医療機関等へ通知しましたが、令和 7 年 1 月 3 1 日付で当該保険医療機関から「保険医療機関の廃止届」が提出されました。

このことから、当該指定の取消処分については、平成 2 1 年 4 月 1 3 日付保医発第 0413001 号厚生労働省保険局医療課長通知の「元保険医療機関等及び元保険医等の取消相当の取扱いについて」に基づき、下記のとおり、指定の取消相当の取扱いと改めましたのでお知らせします。

### 【取消相当の内容】

保険医療機関の指定の取消相当

- |                   |                |                   |                     |
|-------------------|----------------|-------------------|---------------------|
| (1) 名             | 称              | 医療法人社団 圭春会 小張総合病院 |                     |
| (2) 所             | 在              | 地                 | 千葉県野田市横内 2 9 - 1    |
| (3) 開             | 設              | 者                 | 医療法人社団圭春会 理事長 山下 加美 |
| (4) 取 消 相 当 年 月 日 | 令和 7 年 2 月 8 日 |                   |                     |

### 【監査を行うに至った経緯】

当該保険医療機関が行った一般病棟入院基本料 7 対 1 の施設基準の届出について、病棟に勤務していない看護職員が病棟に勤務しているとの情報提供があった。

当該保険医療機関に対して、当該届出の施設基準の適合状況について、事実確認を行ったうえで報告するよう指示し、実際の看護職員の勤務実績がわかる資料の提出があった。

提出された資料について、個別指導及び適時調査を実施して確認したところ、当該届出に添付されている看護職員の勤務実績に、病棟に勤務していない看護職員が病棟に勤務したとして記載されていることが確認された。

以上のことから、一般病棟入院基本料 7 対 1 の施設基準の届出について、事実と異なる届出を行って不正に診療報酬を請求していた疑義が濃厚となったことから個別指導を中止し、監査要綱の第 3 の 2 に該当するものとして令和元年 6 月 1 2 日から令和 5 年 7 月 1 9 日まで計 2 1 日間の監査を実施した。

### 【取消相当に至った主な理由】

当該保険医療機関の監査を実施した結果、以下の事実を確認した。

請求できない一般病棟入院基本料 7 対 1 の診療報酬を不正に請求していた。

### 【診療報酬の不正請求額】

監査で判明した不正件数、金額は次のとおり。

件 数 27,046件

不正請求額 570,099,450円

※ なお、監査で判明した以外の分についても不正請求等があったものについては、監査の日から5年前まで遡り、保険者等へ返還させることとしている。